

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100355		
法人名	有限会社 栄友		
事業所名	グループホームゆう		
所在地	〒071-1426 上川郡東川町北町4丁目9-26 (電話) 0166-82-5600		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	14.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~19,500 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	316 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,066 円		

(4) 利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 60 歳	最高 103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川町立診療所・愛生会病院・旭川厚生病院・東川歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、大雪山を遠望でき、公園に隣接した立地で、広い敷地に畑や遊歩道を設けている。利用者の自立を支援したいという施設長の思いから、リハビリに力をいれており、平行棒を設置し、歩行訓練に力を入れている。また、各居室にトイレを設置し、誘導によるトイレ介助をして、自立を促している。各居室には出窓が設置され、窓の外には実のなる木を植え、その実を秋に収穫することを利用者は楽しみとしている。また、なるべく無農薬の野菜を使用し、朝は玄米食にするなど、利用者にとって良いことはできるだけ取り入れようとする、意欲的な事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での主な改善課題である職員の定着率を上げることは、開設5年目をむかえて職員も定着しつつある。なお、同業者とのネットワーク作りは、引き続きの検討課題としている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全体で取り組み、各自が評価表を、記入し定例会議で話し合い、責任者と管理者がまとめる形で作成している。自己評価は、日々のケアサービスを振り返る機会としてとらえ、事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は、役場の職員、民生委員、地域住民、家族代表、職員を構成員とし、2ヶ月に1度、開催している。会議では、事業者の運営状況や行事の案内、事故報告等を行っている。また、自己評価や外部評価についても積極的に議題とし、参加者はモニター役として、意見、要望を出してもらい、サービスの質の向上に役立っている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族の来訪時には、できるだけ声かけをし、家族から意見を聞くようにしており、意見、要望があれば、速やかに対応している。また、月に1度、家族に便りを送付し、3ヶ月に1度、ゆう新聞を発行して、家族に利用者の様子を伝えている。また、運営推進会議の中でも、家族からの意見をできるだけ聞くようにしている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町内会に加入しており、地域の行事に参加している。また、事業所の祭りに地域住民が大勢参加したり、小学生や高校生のボランティアを積極的に受け入れるなど、相互の交流を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	豊かな大地で安らぎのある家として、利用者が自分らしく「友悠友優」と生活していくことを支えるという、事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい職員の採用時や、定例会議、勉強会の時に、管理者は理念について説明しており、職員間で理念を共有して、日々実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内の行事に参加したり、事業所の祭りに地域住民が大勢参加してブラスバンドやよさこいを披露するなど交流を図っている。また、地域の小学校や高校のボランティアを積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、自己評価や外部評価の意義を理解し、全員で取り組み、話し合いをしている。また、外部評価を運営推進会議や家族に配るなどし、評価を活かして日々のケアを振り返る機会としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催している。役場の職員、民生委員、地域住民、家族代表、職員が参加して、事業所の運営状況や行事の案内と参加要請を行い、意見、要望を聞きながら、運営に反映するよう努めているが、会議での協議が形式的になっている。	○	運営推進会議が形式的ではなく、有効に機能するために、家族や利用者の意見を聞きながら、事業所の課題を協議したり、災害時の協力要請を行うなどして、さらに活用することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター（町保健福祉課）主催の運営協議会に出席し、高齢者ニーズの情報交換や相談などを行っている。また、機会あるごとに町の担当者との連携を図っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度便りを送付し、3ヶ月に1度新聞を発行して、利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。利用者の状況に変化があった時は、個別の手紙や電話で伝えている。また、健康状態や領収書の写し、金銭出納帳の内容は毎月伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に声かけをしたり、運営推進会議の中で、意見、要望を聞くようにしており、不満や苦情があれば、速やかに対応するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の教育に熱心で、質の高い職員の確保に重点を置いている。そのため、開所当初は職員の交代もあったが、5年目を迎え、職員が定着してきており利用者となじみの関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成に力を入れており、内部研修の他、外部研修にも職員が参加しており、定例会議で報告し、職員間で研修の成果を共有している。職員の資格取得の援助や、救急救命講習も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム運営協議会に参加し、同業者と意見や情報を交換している。また、管理者は近郊の同業者との交流も行っている。しかし、職員間の交流やネットワーク作りまでには至っていない。	○	管理者だけではなく、職員も含めて、同業者との交流を図る機会を設け、サービスの質の向上に役立てる取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては利用開始前に、利用予定者や家族が事業所を見学し、利用体験をしてから、納得の上で、利用を開始している。また、併設のデイサービス利用者が、職員や事業所の雰囲気に慣れてから、移行することもある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬け物作りや食事の準備、盛りつけ、食器の洗浄など、利用者一人ひとりが活躍できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりのなかで、本人の希望、意向を聞き取り、カンファレンスで検討し、ケアプランに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を尊重し、職員の気づきを反映させた毎日の記録を基に介護計画作成者が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1度見直しをしている。利用者の状態に変化があれば、その都度、家族と話しあい、さらに、医療機関とも相談しながら、現状に即した見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医の往診のほか、医大病院への受診介助を行っている。また、本人の希望に応じて病院の帰りに買い物や外食をするなど、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診を受けており、事業所には看護師も常勤していることから、医療機関と情報の共有は図られている。また、本人や家族の希望でかかりつけ医(医大病院)の受診支援も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての方針は整っており、利用開始時に家族に説明し、同意を得ている。また、利用者の身体状況に変化があった場合はその都度、家族や医療機関と話し合い、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、誇りを傷つけることのないような声かけや対応を心がけている。個人情報の書類は事務室に保管し、守秘義務も遵守されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所には1日の基本的な流れはあるが、食事時間は、一人ひとりの体調やペース、希望に合わせて支援している。また、体操、リハビリ、編み物、塗り絵、民謡、パズルなど、それぞれ本人の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を考慮して献立を作っている。また、利用者の得意なこと、興味のあることを把握し、職員と一緒に、食事の準備や後かたづけなどを行っている。しかし、職員は利用者の食事介助や嚥下状態を把握するため、利用者と一緒に食事をするには至っていない。	○	食事が楽しみなものになるよう職員と利用者が一緒に食事する環境づくりに努めることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は2日に一度の入浴を基本に、好きな日に入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、無理強いしないように誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ、漬け物作り、新聞取り、ゴミ出し、など利用者一人ひとりの力量に合わせて、役割支援している。また、毎日の体操やリハビリ、ゲームや民謡などの楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は夏場は毎日、広い敷地内の花畑や野菜畑に出かけたり、遊歩道や隣接する公園への散歩などに出かけている。また、ドライブや買い物、祭りへの参加など、希望にそった外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかける弊害を理解しており、日中は利用者を見守り、施錠していない。なお、夜間は防犯上、施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、夜間設定を含め年4回行っている。救急救命講習も職員全員が受けているが、災害時の地域住民の協力関係は、まだ構築されていない。	○	運営推進会議などを通して、地域住民の災害時の協力関係を構築することを期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量を把握しており、職員間で共有している。また、利用者の状態に合わせ、刻み食、とろみ食、おかゆ、糖制限、服薬による制限のある場合などには食品について配慮する支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は高い天井、広い窓、広い廊下からなり、開放的な作りとなっている。また、居間にはソファを、廊下などには椅子を設置し、利用者が一人になる場所を確保している。壁には季節の飾り物を掲示するなど、季節感を採り入れて、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと洗面所がついており、プライバシーが保たれている。また出窓を設置し、利用者の好みのものを飾っており、居心地のよい空間となっている。		

※  は、重点項目。